

人と地域が輝く、
豊かで元気な活動づくりを応援中



行ってみよう！ みんなの まちづくりセンターへ



まちづくりセンターとは

丸森町が設置した、町民が主体となって行うまちづくり活動や生涯学習、健康増進・地域交流の場です。地元をよく知る「住民自治組織」が管理運営する地域づくりの拠点施設です。

住民自治組織とは

住民自治組織は、より良い地域づくりを实践するための組織として、平成19年から丸森町内8地区に設立されており、まちづくりセンターの運営のほか、次のような役割を担っています。

- ①地域課題の抽出・合意形成・計画・実践
⇒地区別計画の推進
- ②町との連携・調整
- ③集落支援業務
- ④その他の独自事業

丸森地区協議会 丸森まちづくりセンター TEL 0224-72-1683

①現状の把握：丸森地区は、町の中心部から山手まで多様性に富む地区です。令和元年東日本台風で被災した神明地区には災害公営住宅が建設され、また竹谷地区には町営住宅が再建されました。地区協議会は、地区ごとに異なる地域課題を把握する必要性を感じていました。

②検討・話し合い：課題を把握するためには、地区の集まりの場に参加し、高齢者の困りごとなどの課題を聞き取り、地区住民に暮らし向きについてのアンケートを実施するなどの方法があります。地区に合った方法を実践していくことを検討しました。

③具体的実践：集落支援員は、神明住宅の集会所で実施しているサロンに参加し、入居住民や関係団体等との対話を重ね、自治会の自立的な運営をサポート。また、住宅住民によるカラオケや麻雀サロンの立ち上げ支援も行いました。まちセンで楽しく活動しています。



楽しく集う、麻雀サロン

金山自治会 金山まちづくりセンター TEL 0224-78-1121

①現状の把握：自治会では、令和3年度に再編により閉校した金山小学校の跡地活用について、地区全体で協議していく必要性を感じていました。また、若い世代の意見が反映されにくい状況にあることも課題です。地区の多様な世代による「小学校跡地活用検討委員会」の実施に加え、意向を把握するため中学生以上の住民約800名に対してアンケート調査を実施しました。

②検討・話し合い：アンケート結果は区長会や検討委員会で共有し、地区内への周知や文化祭での展示も実施しました。小学校跡地の活用

についてもアンケートのほか、跡地活用のアイデアも提案いただき、それらをもとに、検討委員会で話し合いを行いました。

③具体的実践：今後、検討委員会でまとめた構想を町に提示し、具体的な実践を予定しています。アンケートでは、「金山地区に住み続けたい」と答える方が多く、そうした声を活かした地域づくりを展開していきます。



小学校跡地活用検討委員会

筆甫地区振興連絡協議会 筆甫まちづくりセンター TEL 0224-76-2111

①現状の把握：町内で最も人口減少や担い手不足が深刻な地区である筆甫は、限られた人材できめ細かな地域運営のあり方を模索してきました。住民一人ひとりのニーズの把握、地区のお茶のみ会に出てこられない人への調査、移動販売のスタッフによる住民の聞きとり、民生委員定例会への参加などを日頃から意識的に行っています。

②検討・話し合い：協議会は、町が地域の支え合い体制づくりを目的に配置する「生活支援コーディネーター」、地域づくりをサポートする「集落支援員」を連動的に導入し、継続可能な事業展

開を検討しました。

③具体的実践：令和4年の9月からスタートした、高齢者にお弁当を届けるサービスもそのひとつです。お弁当は希望者が費用（400円）を払って配布されます。集落支援員は、お弁当づくりも担い地区住民の生活を支えます。



高齢者の方へお弁当配達

共に考える、
地区の復興と地域づくり

小学校跡地活用について
住民アンケートを実施

事業の連携で
高齢者にお弁当をお届け

大内地区協議会

大内まちづくりセンター TEL 0224-79-2004

①現状の把握：地区では、少子高齢化や小学校の再編により、地区の子どもたちが集まる機会や、地域との関わりが少なくなりました。また、仕事や家庭で忙しい子育て世代は、地区の活動に参加しにくく協議会との接点も少ない状況でした。

②検討・話し合い：そんな中、地区の30～40代の子育て世代を中心に、「大内みらい屋」が結成されました。子どもたちの思い出作りや、地区への愛着を深める活動を目的にイベントの盛り上げ役として活躍しています。協議会は、自主的に生まれたこの「大内みらい屋」の活動を見守り、連携しています。

③具体的実践：令和4年6月、「大内みらい屋」は、148年の歴史に幕を閉じた大内小学校のグラウンドを会場に、「みんなで148周リレーして走ろう」というイベントを主催。協議会はその活動に補助金を交付しました。今後も若手世代と連携し活動を進めたいと考えています。



大内の良さを未来へつなぐ

小斎振興協議会

小斎まちづくりセンター TEL 0224-78-1111

①現状の把握：コロナ禍で、盆踊り、収穫祭などの様々な地域行事が自粛・中止となる中、月に一回、各地区で実施するお茶のみ会は継続していました。集落支援員は、お茶のみ会の場に出向き、住民と接する中で、「コロナ禍で外出も減った。身体を動かしたい」という声を聴きました。

②検討・話し合い：協議会の令和4年度計画では予定していませんでしたが、住民の声を受けて、また、小斎地区が国保1人当たりの医療費が町内で一番多いことから「健康教室」を開催することに。町の保健師にも相談し、町と共催で開催

することになりました。

③具体的実践：「健康教室」で最初に行ったのは健康チェック。血圧測定、筋肉量や体脂肪量など自分の体の状態を測定・確認しました。次に、町内施設の理学療法士と作業療法士を講師に、イスやタオルを使って自宅でも気軽に取り組める運動を体験しました。令和5年度からは通常事業として実施しています。



ハ～イ、頭の後ろまで～

館矢間地区協議会

館矢間まちづくりセンター TEL 0224-72-2120

①現状の把握：地区では専門部会や各実行委員会が中心になってさまざまなイベントや行事を開催しています。しかし、部会員や実行委員の固定化や高齢化により、今後これらの事業を継続したり新規事業を立ち上げたりすることに課題を感じていました。

②検討・話し合い：地域活動への新たな人材や若い世代の関わりを検討した結果、若い世代に地域を考えてもらう場をつくることを目的に、「館矢間わいわい懇談会」を企画し、

話し合いを実施しました。

③具体的実践：懇談会では、10代から50代までの幅広い人たちが参加し、協議会の事業や地域の活動についてたくさんのアイデアが出されました。「集まる場・話し合いの場があれば考えを共有することが出来る」という前向きな気持ちが生まれ、「移動プラネタリウム」や「伊具高校生との連携」などのアイデアの実現につながりそうです。



気軽な雰囲気ですわいわい!

地区の若者会と
連携し活動を支援

住民の声から地域課題をとらえ、
事業や地域づくりに活かす

わいわい懇談会で
若い世代のアイデアが飛び交う

大張自治運営協議会

大張まちづくりセンター

TEL 0224-75-2124

①現状の把握：大張地区では、少子高齢化で活動の担い手や後継者不足などが課題となる中、令和4年3月末には、利用児童の減少を理由に大張児童館が閉館しました。

②検討・話し合い：協議会は、地元企業や若手グループと検討を重ね、同年8月、旧児童館を活用し、地域の企業の社内にあったジムを移転・リニューアルし、トレーニングジム「MK fitness」をオープンしました。地域活性化につながる事業として、協議会が地区の有志の人たちと運営をしています。

③具体的実践：ジムは、軽めの運動から本格的なトレーニングまで年齢・性別を問わず、地区外の方も利用できます。毎週月、水、金、日曜日、子どもから高齢者まで、幅広く地域の交流の場として活用されています。月、水、金曜日は集落支援員がジムに常駐し、交流を後押ししています。



交流しながらトレーニング

トレーニングジムを
幅広い世代の交流の場に

耕野振興会

耕野まちづくりセンター

TEL 0224-75-2134

①現状の把握：耕野地区では、人口減少や高齢化が進む中、令和4年度に小学校が再編されたことで、世代間交流の機会でもあった運動会が開催できなくなりました。ですが、大切な交流の場を継続したいと考えました。

②検討・話し合い：運動会に代わる地区の交流事業を開催できないか検討し、地区の体育協会や以前から付き合いのあった仙台大学の大学生などの連携により、多世代が楽しく個人で参加できる、レクリエーションスポーツ祭りを実施することになりました。

③具体的実践：スタンプラリー形式で、何種類かのニュースポーツのコーナーを作って実施。屋外にはコーヒーコーナーを設けました。当日は若い人たちの参加もあり、関心のあるテーマで呼びかければ住民が集まるといことがわかり、次の取り組みにつながりながら足がかりになりました。



プラズマカーレース、スタート

ニュースポーツで
世代間交流を促進

集落支援業務とは

丸森町では令和4年度から、総務省の「集落支援員制度」を活用し、住民自治組織に業務を委託しています。これにより住民自治組織の基盤強化と、地域の特性を活かした魅力ある地域づくりの推進を図っています。

丸森町の集落支援業務は、地域の実情に詳しい住民自治組織が町と連携し、集落への「目配り」として地区の巡回訪問などにより状況把握を行い、①地域の声を聞き、②話し合いの場を作り、③地域課題解決や地区の活性化に向けた取り組みの実践へつなげる支援をしています。

①現状の把握

- 例) ・ 高齢になり買い物など外出時にサポートが必要
- ・ 若い世代の地域活動への参加が少ない
- ・ 地域の自主的な防災の取り組みがすすまない

②検討・話し合い

- 例) ・ 地区役員会での協議
- ・ 住民座談会の開催
- ・ 地域の関係者による検討委員会

③具体的実践

- 例) ・ お買い物ツアーの実施
- ・ 高齢一人暮らし世帯にお弁当を配布し安否確認
- ・ 地域での勉強会や防災訓練の実施

集落支援に関するお問い合わせ先

丸森町 各地区住民自治組織まちづくりセンターのホームページ

<https://www.town.marumori.miyagi.jp/town/detail.php?content=572>

●企画財政課（役場2階） ☎ 0224-72-3024

●発行 / 取材・編集：株式会社ばとん

仙台市青葉区上杉 3-5-25-502 ☎ 080-6903-9841

smile@baton22.com

●委託元 / 丸森町企画財政課

